

Fastly + 株式会社マネーフォワード

Fastly でシステムの負荷軽減や 高速なレスポンスを実現 負荷分散やリバースプロキシ機能が 採用の評価ポイント

「お金を前へ。人生をもっと前へ。」というミッションに基づき、個人と企業のお金の課題を解決するサービスを提供している株式会社マネーフォワード（以下、マネーフォワード）。主力事業であるPFMサービス、およびMFクラウドシリーズを管理するためのコンテンツ配信ネットワーク（以下、CDN）としてFastlyを導入。作業負荷の軽減や運用コストの削減、レイテンシーの改善などの効果を実現しています。

利用者数650万人の「マネーフォワード」と MFクラウドシリーズの CDN に

個人のお金の悩みや不安の解消、企業の経営改善に貢献し、日本でナンバーワンの「お金のプラットフォーム」になることを目指しているマネーフォワード。「お金と前向きに向き合い、可能性を広げることができる」サービスの提供により、個人の人生や企業を飛躍的に豊かにすることで、より良い社会創りに貢献するための取り組みを展開しています。

主要サービスとして、個人向けの「PFM（Personal Financial Management）サービス」と企業向けの「MFクラウドシリーズ」の大きく2つのサービスを提供。また、企業間後払い決済サービス「MF KESSAI」、自動貯金アプリ「しらたま」、未来のおかねを学べるお店「mirai talk」の運営などの新規サービスも拡充しています。

PMFサービスとしては、約650万人が利用する自動家計簿・資産管理サービス「マネーフォワード」を提供。一方、MFクラウドシリーズでは、会計・確定申告、請求書、経費、給与、マイナンバーなど、バックオフィス業務を包括的にカバーするサービスを提供しています。このPMFサービス、MFクラウドシリーズのCDNとして、Fastlyが採用されています。

2017年にスモールスタートで Fastly を導入 ～圧倒的に高速なページと利便性を評価～

マネーフォワードでは、2017年4月ごろからスモールスタートでFastlyの検証を開始。CISO室サービスインフラグループの村上勝俊氏は、「社内の人も知らないくらい小さくはじめました」と話します。その後、9月よりFastlyの本格的な検討と技術検証を開始。10月にFastlyのデプロイ用ツールを開発し、11月より順次サービスをFastlyに切り替えています。



社名:株式会社マネーフォワード

自動家計簿・資産管理サービスの「マネーフォワード」やビジネス向けクラウドサービスの「MFクラウドシリーズ」など、Fintechの領域における新たなサービスの開発及び提供を事業として展開。

住所:〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-21 msb Tamachi

田町ステーションタワーS 21F

URL:<https://moneyforward.com/>

fastly



Network Services

Fastlyを採用した理由を村上氏は、次のように話します。「まだ途中ですが、PFMサービスとMFクラウドシリーズのすべてを、Fastlyに移行しようと思っています。現在、CDNを導入しないという選択肢はなく、その中で圧倒的にページ（キャッシュの削除）が速く、利便性が高いこと、サービス利用者へのメリットなどを評価してFastlyを採用しました」

Fastly採用のポイントは、（1）Fastlyを単なるCDNとは考えておらず、搭載されているロードバランシングやリバースプロキシの機能が有効利用できると考えていたこと、（2）Fastlyの導入により運用コストの削減が期待できること、（3）サービスの利用者へ高速なレスポンスを提供できることの大きく3つでした。

村上氏は、「CDNを導入した最大の目的は、システム負荷の軽減です。中でも、リバースプロキシの管理が煩雑化していたので、Fastlyにロードバランシングやリバースプロキシの機能が搭載されたらすぐに導入したいと考えていました。また、Fastlyを導入すれば、すぐに運用コストも削減できるのではないかと考えていました」と話します。



サービスシステム部
鈴木陽介氏

数十時間かかるデプロイを Fastly で短時間に ～利用者のメリットとしてレイテンシーも改善～

Fastlyを導入する前は、Elastic Load Balancing (ELB) やnginxなどのミドルウェアを組み合わせ、キャッシュや負荷分散、リバースプロキシなどの機能を実現。独自開発の仕組みでコンテンツ配信を管理していました。そのため、もし設定を変更したい場合、サーバー台数分の設定を変更する作業が必要になり、作業負荷が増大していました。

マネーフォワードフィナンシャル株式会社サービスシステム部の鈴木陽介氏は、「独自のコンテンツ配信管理では、サーバーが16台あったとすると、16台分の設定を変更する作業が必要になります。Fastlyでは、1つの設定を変更するだけで、すべてのサーバーに設定変更が迅速に反映されるので非常に便利です。グローバルワイドの変更にも対応できます」と語ります。

MFフィナンシャルは、2018年5月に設立されたマネーフォワードのグループ会社です。同年夏よりブロックチェーンおよび仮想通貨に関するニュースや国内外の交換所の価格比較などを発信するメディア事業を開始したほか、2018年内には仮想通貨交換所の開設を目指しています。将来的には送金・決済プラットフォームの構築も実現したいとしています。

「コンフィギュレーションなどを、サーバーごとに配布するための作業が効率的ではありませんでした。新しいサービスを追加するにも、作業時間が数十時間かかっていましたが、Fastlyであれば短時間でデプロイできるようになりました。システム担当者としては、ログ管理がかなり効率化されています」（鈴木氏）。

また村上氏は、次のように話します。「APIを利用して、設定変更の作業をコード化できたことが、作業の効率化を実現できた最大の要因でした。ELBとリバースプロキシが搭載されたサーバーを、Fastlyに移行したことで、サーバーを1つ排除することができ、シンプルな構成を実現することができました」

現状では、キャッシュの対象を限定しているため、リクエストの10～20%程度しかキャッシュされていません。ただし、このトラフィックが全体の50～80%程度を占めているので、大幅なトラフィックの削減効果が期待できます。これにより、ログ管理に利用しているクラウドサービスの利用コストを削減することも期待できます。



CISO室サービスインフラグループ
村上勝俊氏

またFastlyは、HTTP/2をサポートしているので、トータルとしてレスポンスの向上も期待できます。鈴木氏は、「利用者のメリットとしては、レイテンシーが改善されています。特に地方や海外から利用しているユーザーには効果があると思います。利用者が、気がつくかどうかは別ですが、画面の表示は早くなっているはずですよ」と語ります。

今後、マネーフォワードでは、キャッシュ対象の範囲をさらに拡大する計画です。村上氏は、「Fastlyの機能では、ウェブアプリケーションファイアウォールを導入することで、セキュリティ面での効果を期待しています。またイメージオプティマイザーを積極的に活用することで、デバイスに応じて表示するイメージを最適化していきます」と話します。

今後のFastlyへの期待について鈴木氏は、「社内ですら質問するのと同じ感覚でFastlyに問い合わせができ、それに対して手厚いサポートを提供してもらえました。問い合わせに対するレスポンスも早く、具体的な解決方法を提示してもらえたのも助かりました。また、今年設立したグループ会社マネーフォワードフィナンシャル株式会社が今後展開していく「仮想通貨交換所」においても採用を決めています。そのためのFastlyのサポートには、大いに期待しています」と話しています。

お問い合わせ



✉ japan@fastly.com

🐦 @FastlyJapan

🌐 www.fastly.com/jp

📘 @FastlyEdgeCloudJapan



fastly

